

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1270401118
法人名	有限会社リナ
事業所名	グループホーム 星の里
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町738 - 2 (電話) 043 - 228-5663

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉中央区千葉港4 - 4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	6月10日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	8人, 非常勤 15人, 常勤換算 9.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一般 46,000 ~ 50,000円 生活保護受給者45,000円	その他	食費45,000, 水道光熱費20,000, 理美容代, おむつ代など	
保証金の有無 (入居一時金含む)	一般200,000円 生活保護受給者180,000円	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(3月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院 都賀デンタルクリニック
---------	--------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

若葉区野呂の竹林と水田に囲まれた緑豊かで静かな環境にあり、経営母体は他にグループホーム月の里、グループホーム中野をはじめ計4つのホームとデイサービス、更に近隣市町村に二つのホーム増設計画をしている。このホームは他のホームで受け入れ困難な人や、医療処置が不可欠な人、生活保護の人等を率先して受け入れている。スタッフは近隣の主婦が多く、定着率が高く、アットホームな環境の中でのケアが実施されている。ホームの庭は、日光浴、太鼓や花火大会等の行事を通じ、入居者と地域住民が交流できるスペースとして確保されている。近所から、採れたての竹の子や柚子など多くの差し入れがあり、ホームとしても地域に根付いた運営を心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	記録・申し送りの確実な伝達については、申し送り等閲覧後にサインや捺印を義務とした。また、介護計画を全員で共有するために定期的な会議の開催が望まれたが、いまだ定期開催には至っていない。職員が入居者と食事を共にしていなかった点については、週二回、入居者とともに食卓を囲む体制ができた。買い物支援については、衣服等、入居者の好みを最優先した買い物で楽しみを持てるようにした。
重点項目	評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んでいる。また外部評価の結果を報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための取り組みがなされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議では、事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見、要望を取り入れ、サービスの向上に繋がるよう会議運営がなされている。市町村担当課へは随時連絡を取り、協力が得やすい体制作りを心がけている。また、社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業担当者、行政の生活保護担当者とも連絡を密に取っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	来訪時の報告の他、毎月、請求書とともに健康状態や近況の報告をしている。また、体調変化や病院受診の結果等はその都度、家族に連絡、確認をしている。家族の訪問時には声を掛け、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、意見箱を設置し意見や不満、苦情が表明できるよう配慮されている。今後、家族会の開催も検討したいとしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や地域の花火大会、農業祭等には積極的に参加している。また、ボランティアによる太鼓や日本舞踊、フラダンスの訪問時には近隣住民を招待し開催している。また、近所とは互にとれた野菜をやりとりしたりしている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認し「認知症により自立した生活が困難な入居者に対し地域の人たちの協力を得て、安心と安定した生活を支援する。」を理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝えている。理念は毛筆で書かれており、自然と視線が集まる効果が発揮されているが、職員間で理念を掘り下げて意見交換する場が確保されていない。		各職員は理念の重要性を認識しているが、それぞれの解釈にとどまっている。定期的な会議やミーティング等で理念を掘り下げ、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図ることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域の花火大会、農業祭等には積極的に参加している。また、ボランティアによる太鼓や日本舞踊、フラダンスの訪問時には近隣住民を招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んでいる。また外部評価の結果を報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための取り組みがなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見、要望を取り入れ、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当課へは随時連絡を取り、協力が得やすい関係作りを心がけている。また地域福祉権利擁護事業関係者や生活保護担当者とも連絡を密に取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時の報告の他、毎月、請求書とともに健康状態や近況の報告をしている。また、体調変化や病院受診の結果等はその都度、家族に連絡し確認をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には声を掛け、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、意見箱を設置し意見や不満、苦情が表明できるよう配慮されている。更に家族会の開催も検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定され、基本的には顔馴染の職員によるケアを心がけている。職員の定着率が高く、この二年間異動はないが、異動や離職がやむを得ない場合は、影響を防ぐ最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、法人役員が各職員の力量を見極めて割り振り、受講できるようにしている。事業所内では介護支援専門員による現場中心の研修が確保されている。		様々な研修に参加しているが、各職員の力量や知識、成長段階の把握はされていない。認知症介護に必要最低限のスキルが身に付けられるよう、年間研修計画等に反映させ、また、研修報告書を有効活用し効率的に職員を育成する仕組みの工夫が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市や若葉区のグループホーム連絡会、同法人のグループホーム合同勉強会などの交流を持つことにより、サービスの質向上に向けた取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者本人、家族にホームを見学してもらったり、自宅に職員が出向いて馴染みの関係作りに努めている。入院中の入居希望者には病院まで職員が面会に行くなどしている。また、体験入居の受入れもしており、安心して入居ができるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、人生の先輩として普段から入居者に教えてもらう場面が多い。また、そういった場面が多くもてるようセッティングや工夫、声掛けに配慮している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いに触れたときは業務日誌に記入したり、普段から把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーは、家族、職員とよく話し合いながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>何に困っているか、どんな暮らしがしたいか4ヶ月に一度の定期見直しを行い、出来ることを引き出してその人らしい暮らしができるよう支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参り、法事、通院など家族の要望に応じ、職員が家族に代わって臨機応変に付添い支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	糖尿病、脳梗塞、痛風などの病歴がある入居者もあり、入居前からのかかりつけ医との関係を大切にしている。また入居後の協力医とは定期的な受診の他、いつでも受診できる関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人、家族、主治医ともよく相談し方針を共有することの重要性は理解しているが、まだ十分とはいえない。		終末介護のあり方について、家族、主治医などの関係者と十分な話し合いを持ち、方針を共有することが重要と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は鍵を掛けた場所で保管している。毎日の生活の中で、管理者は職員の言葉かけや対応にも注意を払い、尊厳を傷つけないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝から歌を歌う入居者や近くの菜園に野菜を採りに行く人等、一人ひとりのペースで、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に、献立や調理の仕方などについて話し合っている。入居者の中には食事の支度や調理の下ごしらえを手伝う人もいる。しかし、職員が入居者と同じ食卓を囲む日がまだ少ないように思える。		食事は入居者同士や職員との関係作りで大切な場面であり、毎日、一緒に食事ができる体制を作ることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	チェックリストで入浴日を管理している。入浴拒否の場合も無理強いをせず、時間を変えたり、シャワーや足浴にする、入浴剤を変えるなど、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字やカラオケを楽しむ入居者が多い。男性入居者の中には、野菜を収穫したり掃除を率先して引き受ける人もいる。職員は入居者の生活歴や好きな事をよく観察して、無理のない出番を作り出す工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭にベンチやテーブルを置き、日向ぼっこやカラオケを楽しんでいる光景が見られた。このあたりは自然も多く、体調を見ながら、散歩や買い物に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、非常口、玄関などに鍵は掛けていない。外出傾向がある入居者も、職員の見守りと声かけで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の役割分担を決めて、消防署の協力の得て、避難誘導、消火器の使い方など防災訓練を行っている。しかし、近隣住民の協力を得た訓練はまだできていない。		職員の多くが近隣住民であり、緊急時には協力が得られる環境にあるとのことなので、具体的な訓練の実施が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立に目を通し、入居者の希望も取り入れた手作りの家庭料理が提供されている。食事量、水分量は記録に取り、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や季節の花が飾られ、暖かな家庭的な雰囲気の共用空間である。気になる音や光もなく、安心して、居心地よく過ごせる環境が保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな仏壇などこれまで使っていた品が持ち込まれ、各入居者の個性を生かした安全で清潔な居室になっている。		